

國史研究會記錄

關東史蹟見學旅行

六月七日—十一日

多年我が國史研究會の懸案なりし斯の旅を學校當局の明快なる御理解の元に斷行し得た事を衷心より感謝する次第也。従つてこの見學が如何に豊富なる智識と見聞とを廣くし得た事は論を俟たざる所であり、以下茲にその行程と調査見學を掲げて見ん。

第一日(八日)鎌倉見學 淺草心光會館泊

七日夜行にて京を出發して、八日一路圓覺寺に向ふ。

◎圓覺寺

建築はその零園氣と共に全體的な莊嚴味を發揮す。唐様の特徵を遺憾なく表はし然も簡素なものである。

○舍利殿、貞時が之を營み和樣唐様の様式を備ふ。

◎佛日庵 圓覺寺境内に在り、多數の文書、繪畫を藏す。

「文書」○佛元禪師法語○徑山佛智禪師語錄○正傳寺祈願文○時宗祈願文の一部○大梅山清涼塔院掛御書額佛事 石

寶善玖筆(國寶)

○佛日庵公物目錄

○軸 誠拙禪師筆

國史研究會記錄

「繪畫」○達磨大師畫像○圓覺上人畫像○佛國々師畫像○右樂

天畫像○宗覺禪師畫像

○圓覺寺佛殿古圖 元龜四年三月廿三日付 用紙 楮紙五十餘枚—宋代の布帛也

因みに一平方寸七百圓也と

○大昌雪庭深出和尚畫像

◎東慶總持禪寺

弘安八年の開創也、開山は時宗の夫人にて時宗の菩提を弔ひし也。別稱緣切寺或ひは書込み寺と云はる。天保五年大塔宮五百年祭に貴賤男女を問はず歌を集め千百名の詩歌を奉納せしむ。この詩歌こそ幕末尊皇史上貴重なる資料也。

◎大塔宮 高時、賴朝の墓に詣づ。

◎國寶館拜觀

所在 鷗岡八幡宮境内東側

建築は耐火耐風の瀟洒なるものにして、内部は鎌倉時代社寺建築様式の素材にして雄大なる古色を帶ぶ。

陳列さるゝもの彫刻、繪畫、美術工藝品中特に著名なるものを示せば次の如し

(藤原時代)

「彫刻」○阿彌陀如來坐像 木造(國寶) 壹軀 證菩提寺藏

(藤原時代)

○不動明王坐像 木造(國寶) 壹軀 極東寺藏

鎌倉地方には此時代の作品は少なく殊に頭に寶冠台を頂げる不動尊は稀なり、元石州の某寺にありしもの也。

(鎌倉時代)

○初江王坐像 木造(國寶) 壹軀 圓應寺藏

玉眼入り寄木造り彩色の像であるが後世塗替したものが大分剥落して居る同寺十王の内建長三年造立當時の舊容を完全に存して居る唯一の像である。

(同)

○俱生神坐像 木造(國寶) 貳軀 圓應寺藏

俱生神は人と俱に生れ常に肩上にありて其の人の善惡業(左肩男善業)(右肩女惡業)を記録し閻魔王に傳ふる神將也。

(同)

○地藏菩薩立像 木造(國寶) 一軀 壽福寺藏

頗る古風を帯びたる一本作り光春持物は後世修補

(同)

○釋迦如來坐像 木造(國寶) 一軀 極東寺藏

(同)

○十大弟子立像 木造(國寶) 拾軀 極東寺藏

(同)

○地藏菩薩坐像 木造(國寶) 一軀 淨智寺藏

○舞樂面鑿蘭陵王菩薩(國寶) 來面 鶴岡八幡宮藏

(同)

○阿彌陀如來立像 銅造(國寶) 一軀 圓覺寺藏

(同)

○兩脇侍立像 銅造(國寶) 二軀 圓覺寺藏

(室町時代)

○上杉重房像 木造(國寶) 壹軀 明月院藏

(鎌倉時代)

〔繪畫〕○當麻曼荼羅緣起 紙本着色(國寶) 二卷 光明寺藏

(同)

○當麻曼荼羅 絹本着色(國寶) 一幅 光明寺藏

(同)

○淨土五祖繪傳 紙本着色(國寶) 一卷 光明寺藏

(同)

○頬燒阿彌陀緣起 紙本淡彩(國寶) 二卷 光融寺藏

(同)

○虚空藏菩薩像 絹本着色(國寶) 一幅 圓覺寺藏

(室町時代)

○觀世音菩薩像 紙本墨畫傳啓書記筆(國寶)

三十二幅 建長寺藏

(同)

○十六羅漢 絹本淡彩傳兆殿司筆(國寶)

八幅 建長寺藏

(同)

○喜江禪師像 紙本墨畫啓書記事(國寶)

一幅 建長寺藏

(支那畫)

○五百羅漢像 絹本着色傳張思恭筆(國寶)

三十三幅 圓覺寺藏

(同)

○釋迦三尊像 絹本着色傳張思恭筆(國寶)

一幅 建長寺藏

(同)

○十八羅漢及僧像 絹本着色傳陸信忠筆(國寶)

十九幅 光明寺藏

(繪圖)

○明月院繪圖 紙本淡彩(國寶) 一幅 明月院藏

(鎌倉時代)

「美術工藝」○籬菊蒔繪視箱附屬品皆具(國寶)

一個 鶴岡八幡宮藏

後白河法皇より頼朝に賜ふ所と傳ふ。

(同)

○枯葉蒔繪平胡篋(國寶) 貳個 鶴岡八幡宮藏

(同)

○須彌壇(髹漆)國寶 一基 建長寺藏

(同) ○銅造五銘(國寶) 一口 極東寺藏

(同) ○銅 鍾(國寶) 一口 常樂寺藏

(同)

○青磁香爐 宋時代(國寶) 一口 圓覺寺藏

(江戸時代)

○佛乘禪師度牒(國寶) 一通 報國寺藏

(同)

○佛乘禪師戒牒(國寶) 四幅 報國寺藏

(同)

○東歸集(國寶) 壹册壹卷 報國寺藏

「刀劍」○正恒 在銘備中國住藤原時代(國寶) 八幡宮藏

○長光 在銘備前國住鎌倉時代(國寶) 八幡宮藏

以上

第二日(九日)東京市内見學 淺草心光會館泊

◎明治神宮參拜

○寶物拜觀○繪畫館見學

◎帝大史料編纂所見學

先づ中村孝也博士の史料編纂所の業務に就て一條の御話を承る。

幸ひにして第十四回史料展覽會列品の一部を見學するを得たり。即ち

○凝然自筆書狀 二通 一卷

○虎關師鍊自筆法語 一幅

○南無阿彌陀佛作善集 一卷

俊乘房重源の東大寺以下諸寺の造營造佛を始め道橋の修理等に至る迄その善根の數々を書き列れたもの也。

○明國劄付 一幅

明の神宗の萬曆二十三年二月即ち我が文祿四年二月神宗が前田玄似に都督僉事の官職を授けた際の辭令書也

○朝鮮僧松雲書 一幅

明の神宗の萬曆二十五年三月、即ち我が慶長二年三月朝鮮江原道金剛山の僧松雲が朝鮮在陣の加藤清正に宛て、我が國から朝鮮國に要求した講和條件に對し十箇條に亘つて辯駁したるもの也。

○海東諸國記 一册

本書は朝鮮成宗の二年即ち我が文明之年に領議政申叔舟が直命に依つて撰進せるもの也。

○國朝征討錄 一册

本書は朝鮮の外國征討の大なるもの凡そ七を擧げ各年の日記に據つて編纂したもの。

○ペルリ自署書翰 一通

○米國海軍大佐アポフト書翰 一通

○ペルリ渡來寫生帖 一帖

◎報恩寺

昭和八年三月改築され(鐵筋コンクリート)た。その初めは眞言宗であつた。繪傳一卷、名號、文書數點を見る。

第三日(十日)東京市内 千葉中山見學

◎帝室博物館見學 ◎美術學校見學

◎寛永寺拜觀

所在 東京下谷上野

沿革—東叡山寛永寺と稱す。開山は慈眼大師天海大僧正なり。家康の歸依深く、後水尾天皇より勅額を賜はり、江戸城鬼門鎮護の道場となる。明治元年五月十五日兵火有りて、現在慈眼堂、釋迦堂、觀音堂、東照宮、五重塔、辨財天堂、大佛靈廟を存す。中堂は明治九年十二月五日竣工。

◎慶喜公謹愼の間

鳥羽伏見の戦で破れて後當寛永寺に謹愼された。

◎徳川家靈屋

◎正中山法華經寺

日蓮宗五大本山の一也、その濫觴は遠く人皇八十九代後深草天皇の建長五年富木齋磨寺五郎胤繼の歸依によつて創めらる。

◎法華堂

四寶堂とも稱す。唐様の建築で特別保護建造物也。本尊は一尊四士である。

◎總門

黒門とも呼ばれ門頭の源朝臣太田資順卿筆の額と共に著名也

◎大荒行堂

六百年來大聖人直接傳の修法を傳ふる祈禱の根本道場加行所である。

◎御寶藏 大聖人身に當るの大事たる觀心本尊鈔立正安國論を始め、錄内外壹百數十篇の御聖教を嚴護せる所也。

かくて一行は中山より夜に入つて水戸着。水戸説教所泊多數人の歡迎を受けて旅裝を解く。

第四日(十一日) 水戸 稲田見學

◎願入寺 當山は畏れ多くも後醍醐天皇の勅願所にて大綱の御坊と稱して以來眞宗二世如信上人を御開基として我が御一宗の根本山である。

◎如信上人尊像——光園卿御作

◎源光園卿御消息

◎如信上人御墓所

◎如信上人御所持の御鐵鉢

一度び願入寺を訪れ聖跡復興の感を深くす。

◎大洗磯宮神社

◎善重寺 所在 水戸市外西門村

沿革 見眞大師廿四輩の靈場にして善念師の開く處也。善重寺の名は大師の片諱と善念師の俗名義重の一字を取る也と。

◎聖德太子尊像 一軀 國寶 渡慶法印作

御年十六歳父母孝養の御姿なり。

◎阿彌陀如來尊像 春日作

◎雛形の祖師聖人御眞影 御自作

其他二拾數點

◎弘道館、常盤神社、好文亭、彰考館、偕樂園

水戸學の發祥せし所、光園、烈公の昔を偲び感慨一入の思をなす。

◎稲田西念寺

眞宗の發祥地として、忘るべからざる聖地也。殊に建曆元年大師の自己反省たる教行信證が此の稲田に於いて製作されたる事を以てしても如何に重要な聖地なるかを思ふべし。

◎眞宗開闢御満足御眞影御縁起

◎玄日君御縁起等

以上を以て今回見學旅行の大略を述べたが、脱漏、省略を盡く記載せば數紙を以て記し得ず、茲に粗記不首尾乍ら諸氏の御参考に供する次第。

尙年末文旅行中、幾多の便宜を計らひ下されし諸師本校諸先輩に甚深の謝意を表する次第なり。(倉田記)